

公民館だより なかがわ

第509号

令和7年4月1日

発行 中川地区公民館

TEL.Fax : 679-2501

～令和7年度のスタート！～

新任の挨拶

今年度より山田君夫様よりバトンを引継ぎました齋藤秀明です。これまで築きあげられてきました地域の絆を継承し、微力ではありますが皆様といっしょに、ご協力をいただきながら、イベントやサークルに気兼ねなく参加いただける愛される公民館づくりをめざし尽力いたしますので、今後ともスタッフ共々宜しくお願いいたします。



中川地区公民館長
齋藤 秀明

退任の挨拶

中川地区の皆様には、日頃より公民館事業にご理解とご協力いただき感謝申し上げます。

このたび、公民館長を退任することとなりました。平成30年4月に公民館長を拝命して7年間、コロナの感染で活動制限などもありましたが、なんとか皆様方からご協力をいただき職務を遂行することが出来ました。心より感謝申し上げます。今後中川地区の益々のご発展をご祈念申し上げ、退任の挨拶といたします。

前公民館長 山田 君夫

職員紹介

館 長

齋藤 秀明

事務長

酒井 昭孝

地域活動推進員 柏倉 美穂

地域活動推進員 三瓶 良子

上山市青少年育成推進員 山川 和夫

上山市地域づくり推進員 武田 麻奈美

上山市スポーツ推進委員 鈴木 俊

上山市スポーツ推進委員 齋藤 裕之

※令和7年度新体制の役員名簿は、別紙にて各戸配布いたします。
どうぞよろしくお願いいたします。



【一般講座】

参加者募集

「みそ作り教室」

日 時：5月20日（火）10：00～12：00 頃
 場 所：中川地区公民館 集会室
 講 師：石井伊惣治商店（十日町）
 内 容：出来上がり量が1口5kgのみそを作ります。
何口でも構いません。
申込時に口数をお伝え下さい。
今年も、麹3割増しで作ります！
 材料費：1口2,000円

持ち物：レジャーシート（一人用）、エプロン、
 三角巾、手拭きタオル、飲み物
 みそを持ち帰るための蓋つきの容器
 （内容量1口7kg以上の容器をご準備下さい。）

定 員：先着 15 名程度
 対 象：中川地区民
 締切日：定員になり次第締め切り



毎年好評です！！
 おいしい手作りみそを作ってみませんか？
 今回作ると、秋頃に食べられます。



会員募集！



令和7年度中川粋いき倶楽部

中川地区の65歳以上の方を対象に、会員さん同士や地域の子供達との交流を通して、楽しく笑いのある生き生きとした人生にしていくことを目的とした倶楽部です。
 詳細は、地区回覧チラシをご覧ください。
 締切日：4月18日（金） ※開講式は、5月16日（金）を予定しております。

下記の会員募集については、公民館までお問合せ下さい。

グラウンド・ゴルフ愛好会	スポーツ麻雀愛好会	ラージピンポン愛好会
ウォーキング教室	そば打ち愛好会	詩吟教室
パソコンクラブ		

お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

4月・5月 行事予定

4/1（火） 市報、館報
 4/2（水） 会長会総会、協議会総会、中川地区合同懇談会
 4/7（月） 子ども会育成会
 4/8（火） 中川小学校、北中学校入学式
 4/9（水） 山形盲学校入学式
 4/10（木） 福祉村実行委員会
 4/11（金） パソコンクラブ
 4/14（月） 主事部・体育部合同会議、体育部会
 4/15（火） そば打ち愛好会
 4/18（金） 中川地区戦没者追悼式
 4/22（火） 中川福祉村村議会
 4/24（木） 地区公民館職員合同会議（職員不在時間帯あり）
 上山市地区会長会議
 4/25（金） ウォーキング教室（職員不在時間帯あり）

5/2（金） 三者会・会長会・協議会
 5/8（木） 市報・館報
 5/12（月） 福祉村実行委員会
 5/13（火） そば打ち愛好会
 5/16（金） 粋いき倶楽部開講式
 防犯協会中川支部総会
 5/20（火） 一般講座「みそ作り教室」
 5/23（金） パソコンクラブ
 5/25（日） 中川地区グラウンド・ゴルフ大会
 5/27（火） ウォーキング教室
 （職員不在時間帯あり）
 5/31（土） 蔵王山頂清掃とつつじ祭り

グラウンド・ゴルフ愛好会
 （月曜日） 4/7、14、21、28
 詩吟教室 （火曜日） 4/8、15、22

ラージピンポン愛好会（木曜日） 4/10、17、24
 スポーツ麻雀愛好会 （木曜日） 4/10、17、24

中川粋いき倶楽部閉講式

2月25日(火)「令和6年度中川粋いき倶楽部閉講式」が開催されました。来賓の地区会長会 佐藤友治会長よりご挨拶いただいた後、事業報告、決算見通しを報告し承認されました。令和7年度の事業計画について、たくさんの意見を出していただき、最後に、会員の皆さんに一言ずつ1年間の感想もお伺いし、「楽しかった」「来年度もまた楽しみたい」など、うれしい言葉をいただきました。終了後、ふじや旅館に場所を移しておいしい昼食をいただき、温泉で日頃の疲れをリフレッシュし、楽しい時間を過ごしました。

来年度も、会員の皆さんに楽しんでいただける事業を考えていきたいと思っています。



【一般講座】「レザークラフト教室」

2月28日(金)、一般講座「レザークラフト教室」が、宮城興行(株)より講師をお迎えし開催され、本革を使ってペンケースを作成しました。最初に好きな色の革を選び、裁断、穴あけ、ホックの取り付け、糸を選んで手縫い・・・とやるのがたくさんありましたが、皆さん集中してあっという間に時間が過ぎていきました。とても楽しかった～♪との声もいただき、世界に一つだけの素敵なペンケースが出来上がりました。



中川福祉村施設訪問

3月4日(火)「中川福祉村施設訪問」が福祉村役員、会長会、民生児童委員の参加を得て開催されました。蓬仙園(猪狩 良佳施設長)、かなやの里(島貫 政昭施設長)の各担当者よりお越しいただき、概要説明・質疑応答が行われました。コロナウイルス等感染防止のため、5年前より施設への訪問は行っておりませんが、現況等も含めてお話していただいたことで、改めて各施設について深く知ることができました。これからも福祉村の事業等を通して、各施設と中川地区の連携を深めていければと思います。



出前スポーツ教室「太極舞」

3月21日(金)、出前スポーツ教室の3回目の「太極舞」が、山口 馨先生指導のもと開催されました。初めに、肩の関節を意識しながら手と腕を使った動きを覚え、腰、足の動きを加えながらゆっくりと体を動かし、最後には音楽に合わせて、覚えた動きを組み合わせました。激しい動きはありませんが、終わった後は達成感がありました。すごく良かったあ～との声も聞こえ、充実した時間となりました。



おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百九十八弾〉

「昭和考、問わず語り（その50）」

甲石地区 高橋 正之

これまで満州開拓の歴史を述べてきましたが、昭和十二年七月に勃発した日支事変（日中戦争）の兵力補給に伴い、開拓候補者の欠乏を生じてきます。そこに導入されたのが開拓青少年義勇軍です。本稿は、その経過について記述します。

〈満蒙開拓青少年義勇軍の設立〉

満州に対する日本青少年の移民は、昭和九年満州特務機関として活躍していた陸軍予備大尉・東宮鉄男等によって、東満国境に近い饒河県大和鎮に「北進寮」を建設し、全国から十五歳から二十歳未満の青少年三十名を募集して訓育したのが始まりと言われる。昭和十一年秋、山形県からも三名の青少年が参加した。

昭和十二年秋、満州農業開拓が重要国策として遂行されると同時に、将来開拓民として自立し得る青少年を組織的に訓練育成して集団入植させることが最も効果的であるとし、これを制度化するため満州国、関東軍、満鉄などの現地機関と、拓務省・満州移住協会が協議した結果、試験的に昭和十二年度中に三百名の青少年を募り、現地で訓練することを取り決めた。

これを受けて、現地では満拓公社が北満国境に近い龍江省に用地を確保し、長野県百名、山形県百二十四名、宮城県三十一名、その他で計三百名の青少年を昭和十二年九月末に送り込んだ。

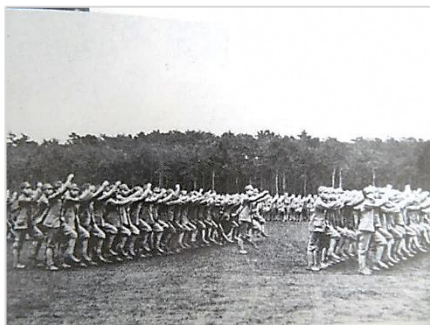
また日本側は文部省と移住協会が会合し、従来の国策移民の一環として制度化するよう政府に建白書を提出したが、この時初めて「満蒙開拓青少年義勇軍」という名称が用いられた。

昭和十三年二月に実施要項が発表されたが、それによると初年度（昭和十三年度）の募集人員は三万人とし、小学校高等科卒業後（十六歳）より十九歳までの青少年で身体健康な者、居住地の市区町村長・小学校校長又は青年学校長、青年団長等の推薦を受け、道府県で人物審査、身体検査を行って合格者を採用する。採用者は、内地で二か月間の基礎訓練を行い、約三百名をもって中隊を編成して渡満する。（写真①は訓練の模様）それまでの旅費、食費、衣料はすべて日本政府が負担するとした。

渡満した青少年部隊は、満州五か所に特設された大訓練所（約五千人から一万人単位）において、一か年の基

礎訓練を受け、次いで約三百名単位の一個中隊単位ごとに全満各地に配置された小訓練所において約二か年の営農訓練を受け、それを終了すると独立の開拓民として一人当たり約十町歩の耕地と、三百戸単位の公共施設（道路、学校、役場、放牧採草地、薪炭伐採地）等の配分を受け、家族（花嫁）を招致して村造りをするという方式だった。（写真②は、満州国での訓練の様子）この間、徴兵適齢期（満二十歳）に達すれば兵役の義務があったが、既に現地で三年間軍事訓練を行うので、数週間だけの現役に服する特例が考えられた。しかし支那事変の長期化、太平洋戦争の勃発等によって特例はなくなり、一般壮丁と同様に徴兵されることになり、義勇軍の移行開拓団の経営はとん挫してしまった。

（写真①）



（写真②）



〈南村山郡の対応〉

南村山郡では、これらの情勢に対応するため、白鷹山麓（海拔六百五十メートル）の傾斜地約二十町歩を借用し、「白鷹青少年修練道場」を建設し、高等科児童や教員を対象に三泊四日程度の開拓訓練を行った。

昭和十六年以降、初期に渡満した義勇軍は訓練を終了し、それぞれ「義勇隊開拓団」として独立開拓建設の段階に入り、花嫁が必要となった。山形県では、それを予想して昭和十二年頃より東村山郡出羽村の青年修練道場で、満州花嫁訓練を実施していたが、昭和十六年には、最上郡萩野村塩野開墾地の一部に「女子拓務訓練所」を設置した。訓練生は、全県下より募集し、第一期生は現地訓練として山形県単独開拓団の第六次北五道南山形郷に「女子拓務訓練所」を設置し、渡満して二か月の実地訓練を実施した。（上山市史・下巻より）

〈終末期の義勇隊〉

昭和十九年、太平洋戦争の戦局が危機の様相を呈して敗色が濃厚になってくると、関東軍の主力は南方に転用され、満州国における対ソ戦態勢は全く不可能となった。

このため、徴兵適齢期を迎えていた義勇隊開拓団の団員のほとんどが、その穴埋めとして関東軍に召集された。任務は、主として軍倉庫等の整備であったが、米軍のB-29爆撃機が鞍山と奉天を爆撃（昭和十九年七月十三日、九月八日）してからは、同地区の軍需工場に派遣された。

こうして、開拓団でも訓練所でも、応召や派遣による離団が相次ぎ、終戦前一か月くらいには、一名の幹部もいない開拓団や小訓練所も出てくるようになった。（全国拓友協議会編集写真集「満蒙開拓青少年義勇軍」家の光協会発行より。写真は、「満州帝国の興亡」新人物往来社刊より）

（次回は、義勇軍に従軍した当地区民の証言を記述する予定です。）